

指導案について

算用数字は、1桁の場合は全角、2桁以上の場合は半角で表記する。

第3学年 組 道徳指導案  
平成 年 月 日 曜日 第 時  
指導者

1 主題名 世界平和の実現に向け 4 - (10) 人類愛

2 主題設定の理由

(1) 価値観

人はだれも心の奥に、生あるものを慈しむ気持ちをもっている。しかし、ときとして、自己本位の幸福やその場の利害を考えるあまり、殺伐とした人間関係を生み出してしまうことがある。まして、それが、異国民のことになると偏見や無理解などから、容易に連帯感もてないのが実情である。

そこで、国籍・人種・民族が違って国際的視野に立ち、世界の平和と人類の幸福に努めようとする心情を培いたい。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、世界の各地で起きているさまざまな出来事をマスコミを通してよく知っている。また、悲惨な出来事に対しては敏感に反応し、「なんとかしてあげたい」という気持ちも強くもっている。

こうした意識をより深め、国際的視野で物事をとらえることができるようにすることが、この時期では重要である。そのうえに立ち、人類の幸福に貢献しようとする態度を培うことができるようにしたい。

(3) 資料観

本資料は、第二次世界大戦中、本国政府の方針にそむいてまでも、ナチスに迫害されたユダヤ人に日本通過のビザを発行した外交官・杉原千畝の話である。

外交官としての立場に悩みながらも、国や民族の違いを超え、同じ人間として困っている人を助けようとした主人公の姿勢は、人類愛とは何かを示している。特に、それぞれの場面における主人公の判断や決断の方法、実践する行動力は、中学3年の生徒にとって、おおいに参考になると思われる。

実話だけに、生徒は関心をもって読み進め、心を揺さぶられるであろう。指導に際しては生徒が得た感動を大切にしたい。また、話の舞台となるリトアニアの歴史的、社会的な背景についても十分な説明をしておきたい。

3 本時のねらい

○ 世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立ち、世界の平和と人類の幸福のために貢献しようとする態度を育てる。

4 準備・資料

○ 中心資料名「6千人の命のビザ」 出典「明るい人生」(愛知県教育振興会)

○ 教師……ワークシート

5 関連

道徳 「さよならホストファミリー」(日本人としての自覚)

6 指導過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
方向付け	1 ピクチャーカードを見て、主な登場人物や当時の国際情勢について知る。 ・杉原千畝 (リトアニア日本領事館領事代理) ・杉原幸子(千畝の妻) ・ユダヤ人虐殺の様子	5	○ 登場人物のピクチャーカードを見せることで、視覚的に印象づけることで資料への方向付けをする。
	2 本資料を読み、話し合う。	15	○ 範読をし、あらすじを確認する。  ○ 範読やあらすじの確認等にかかる経過予定時間を示す。

本時のねらいが分かる主題名を書く。内容項目番号を主題名の後に明記する。(年間計画に示されている主題名とねらいを確認すること)

(1) 価値観  
(2) 児童観(生徒観)  
(3) 資料観と明記する。

(1) 学習指導要領の内容や解説の内容項目についての記述を十分に踏まえること。

(2) この時期にこのねらいを取り上げる理由を児童生徒の具体的な実態を踏まえて述べる。

(3) 資料の取り扱い方や効果的な活用について明記する。

(1) 年間指導計画に基づいたねらいを設定する。

(2) 本時の授業でねらいとする道徳的価値について明記する。

(3) 複数の道徳的価値をねらいとして構成しないように留意する。

複数時間行う内容項目についての同学年の道徳の関連を示す。

「資料名」(主題名)複数時間行わないときは省略し、「5 指導過程」とする。

生徒の活動に対応した指導上の留意事項を書く。

・指導の要点や方法  
・視聴覚機器の使用  
・資料を示すときの注意事項

・その他留意しておきたいこと  
「○」で書き始める。

児童生徒がねらいとする道徳的価値の自覚を深めるために、選定した資料を活用して、どのような手順で指導をすすめるのかを示す。

1 ----- 児童生徒の認識過程をふまえた各段階における児童生徒の活動

○ ----- 具体的な学習活動

・ ----- 予想される児童生徒の反応、具体的な学習活動を明記する必要があるときは○の位置から書き始める。

□ --- 基本発問(人間関係を把握したり、状況をつかんだりするための補助的な発問)

□ --- 中心発問(本時のねらいとする価値に迫るための多様な価値観を引き出す発問)

□ --- 価値の把握の発問(本時のねらいを把握することができる、主人公の気持ちを問う発問)

□ --- 価値の自覚の発問(本時に学んだことを通し、今までの自分自身を振り返る発問)

発問に対して児童生徒の予想される発言は、共感や批判で分類したり、価値観により類型化したりするなど工夫して記す。また、価値の低いものから順に記す。体言止めの文末には句点を付けない。

1時間の生徒の認識の過程を具体的に示す。その内容、方法については創意工夫する。

経過予定時間を学習の区切りごとに示す。また、罫線で区切る。

価値の追求	5人の代表と話し合った後、杉原さんはどんな気持ちになったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>何百人ものビザを独断で発行することはできないから困った。</li> <li>何百人の人々を見殺しにはできない。</li> <li>だめかもしれないが、本省に働きかけてみよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何百枚ものビザを発行することは、杉原さんの権限ではできない状況であることを確認する。</li> </ul>	22	発問ごとの経過予定時間を示す。	基本発問 資料により省略することもある。
	杉原さんは、外務省からの電報の返事を受け取って、どんなことを考えていますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の身に危険が伴うから、やっぱり避難民たちを助けることはできない。</li> <li>これで、外務省としての責任は果たした。仕方がないことだ。</li> <li>私は外交官だから、国の命令に従うしかない。</li> <li>自分の権限を越えているかもしれないけれど人の命には代えられない。どの民族の人間でも、お互いに同じ人間で、一人一人の命の重さには変わらないのだから私ができることはしなければならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人々を助けたい気持ちと自分自身の考えだけでは決断できない事態に揺れる杉原さんの葛藤する気持ちに共感させる。</li> <li>人種を越えて助けようとした事にも触れたい。</li> </ul>	33	<p>補杉原さんが生きる上で大切に考えていることは何でしょうか。</p> <p>補日本の外交官として、国の命令に従わなくてもよいと思いますか。</p>	中心発問 この発問は、資料中の主人公が「ねらい」とする価値を十分把握できず、悩んだり苦しんだりする場面で設定されることが多い。
	列車に向かって何度も叫んでいる人たちを見ながら、杉原さんはどんなことを考えていたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>苦しかったけど、ビザを発行してよかった。</li> <li>国や民族の違いを超えて、人命を最優先して行動した自分の判断は正しかったのだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>葛藤を乗り越えて自分の信念に従って行動したことにより多くの命を救うことができたという計り知れない満足感を感じさせたい。</li> </ul>	38	<p>評国や民族の違いを超えて命を助けるためにビザを発行する決心をした杉原さんの決断力と行動力のすばらしさに気付くことができる。（発表）</p>	補助発問 本時のねらいにせまるために、本音を引き出し、考え方を深めるため、掘り起こしや切り返しの追発問。中心発問に対して設定する。点線の罫線で囲み補で書き始める。
	3 気付いたことを基に、自分の生き方をみつめる。	杉原さんの生き方や考え方からどんなことを学びましたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>人としての生き方</li> <li>正しいと思ったことをやり抜く行動をすることの難しさとするすばらしさ</li> </ul>	45	<p>評人としての生き方を考えることができる。（ワークシート）</p>	価値の把握の発問 主人公が本時のねらいとする価値に気付く、よりよく生きていこうとする場面で設定されることが多い。
まとめ	4 人類のために海外で活躍している人の話を聞く。		50	<ul style="list-style-type: none"> <li>青年海外協力隊に参加した友人の話をするので、国境を越えて世界に貢献することについて身近に感じさせたい。</li> </ul>	評には、学習活動の流れの中での評価の観点を記述する。評価方法については（ ）内に略記する。	
7 本時の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>杉原さんの行動から、国や民族を越えて差別や偏見をもたずに行動することのすばらしさに気付く、今後の生き方の参考にしようすることができる。（発表、ワークシート）</li> </ul>					価値の自覚の発問 基本的には、主人公と同じような経験を問い、今までの生活を振り返らせることになるが、対話や小集団による話し合いや主人公へ手紙を書かせるなどの工夫をすることで、道徳の時間の指導効果を高めたい。
8 備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間での外国の調べ学習と時期をそろえることで国際理解についての関心を高めたい。</li> <li>座席をコの字型にすることで、周りの生徒と相談したり、お互いの発表をしっかりと聞いたりすることができるようにする。</li> </ul>					本時の学習をとおして目標がどの程度達成できたかを確かめる観点を示す。評価方法については、右詰で（ ）内に略記する。
9 指導と評価	<p>指導後の反省を記入して保存しておきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主題を取り上げる時期はよかったか。</li> <li>資料は適切であったか。</li> <li>ねらい、内容、時間に問題はなかったか。</li> </ul>					1～7に書かなかったことで、本時の指導上必要なことがらを示す。

基本発問  
資料により省略することもある。

中心発問  
この発問は、資料中の主人公が「ねらい」とする価値を十分把握できず、悩んだり苦しんだりする場面で設定されることが多い。

補助発問  
本時のねらいにせまるために、本音を引き出し、考え方を深めるため、掘り起こしや切り返しの追発問。中心発問に対して設定する。点線の罫線で囲み補で書き始める。

価値の把握の発問  
主人公が本時のねらいとする価値に気付く、よりよく生きていこうとする場面で設定されることが多い。

評には、学習活動の流れの中での評価の観点を記述する。評価方法については（ ）内に略記する。

価値の自覚の発問  
基本的には、主人公と同じような経験を問い、今までの生活を振り返らせることになるが、対話や小集団による話し合いや主人公へ手紙を書かせるなどの工夫をすることで、道徳の時間の指導効果を高めたい。

本時の学習をとおして目標がどの程度達成できたかを確かめる観点を示す。評価方法については、右詰で（ ）内に略記する。

1～7に書かなかったことで、本時の指導上必要なことがらを示す。

- 特殊な指導形態をとった場合の根拠
- 他領域、教科との関わり
- 学校の現職教育の主題を踏まえた授業構成や手だて
- 事前や事後の指導の工夫
- その他、板書計画や座席表等